

学校教育目標	自ら学び、自ら考え 協働できる 心豊かな生徒の育成	ミッション	知・徳・体の調和のとれた教育を充実し、未来を拓く逞しい生徒を育てることを通して、地域に愛され信頼される学校となる。	ビジョン	～行きたい学校・行かせたい学校の校風づくり～ 【校風四訓の定着】 学びのある学校・元気な学校・美しい学校・やさしい学校
--------	---------------------------------	-------	-----------------------------------------------------------	------	----------------------------------------------------------------

評価計画										学校関係者評価					
中期経営目標	短期経営目標	目標達成の方策 (具体的な実践)	評価指標	目標値	達成値		評価	結果と課題の分析	改善策	担当者	評価			コメント	
					10月	2月					イ	ロ	ハ		
確かな学力	生徒の主体的学びにつながる教科と総合的な学習の時間の授業改善及びその成果の発信	○家庭学習の徹底 ○三和中版「学びの革新」アクションプランの実践による授業改善 ○英検・漢検・各種コンテスト等への積極的挑戦による意欲の向上	○家庭学習の徹底	・家庭学習の各学年目標時間を達成している生徒の割合(%)	70	80.6	79.7	A	・家庭学習時間は、目標値を上回っている。 ・全国学力学習状況調査B問題は、全国平均比が国+10.0、数+6.9で、目標値を上回っている。	・学級指導と教科担当が連携して家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・放課後学習等を利用し、学力の定着の徹底を図り、入試に向けてさらに力を伸ばしていく。	赤木	○		・授業を見ていて、子どもたちが頑張っているのが分かった。 ・放課後の学習も諸調査の結果につながっているのではないかと。 ・家庭学習になかなか取り掛かれなかったり、やり方に不十分さがあったりする。家庭学習の質を高める取組が必要である。 ・自己評価としてはこれで良いが、保護者としてはこれでよいのかなという危機感がある。 ・諸調査で全国平均を下回っている教科への対応も必要である。 ・今後教育内容をガラッと変えていかななくては行けない。今求められている学力に対応するような教育活動を行っていかなくてはならない。	
			○三和中版「学びの革新」アクションプランの策定と実践・改善	・全国学力・学習状況調査B問題の平均正答率の全国平均比 (pt)	+4.0	+8.5	-	A	・「基礎・基本」定着状況調査タイプIIの平均通過率の県平均比(pt)	・「基礎・基本」定着状況調査タイプIIは、県平均比が国+7.6、数+6.3、理+12.6、英-0.7で平均すると目標値を上回っている。					・小5の時の結果と比べれば大きく伸びているが、単元指導計画の中に「整理・分析」の時間を位置づけるよう授業改善を図って、さらに力を伸ばす。 ・基礎を確実に定着させ、読解力・表現力を高めよう。日々の授業の中で取組を行う。また、定期試験にも全教科で読解力・表現力を問う問題を出題する。 ・未受検者への取組を行うとともに、挑戦する風土に変えていく。
			○個に応じた指導の徹底	・英検、漢検、数検を受検した生徒の割合(%)	40	21.4	45.9	A	・標準学力調査(活用)平均正答率の全国平均比(pt)	・標準学力調査(活用)は、全国平均比が国+6.3、社+7.1、数+3.4、理+19.3、英+8.5で、平均すると目標値を上回っている。					・漢検、英検、数検を受検した生徒は39名で目標値を達成した。
			○個に応じた指導の徹底	・英検、漢検、数検を受検した生徒の割合(%)	40	21.4	45.9	A	・漢検、英検、数検を受検した生徒は39名で目標値を達成した。	・漢検、英検、数検を受検した生徒は39名で目標値を達成した。					
豊かな心	規律と温もりのある学校風土づくり	○礼儀やマナーの身に付いた生徒の育成 ○挨拶や私語なし掃除など基本的な生活習慣の確立 ○いじめの早期発見・解決による安心した学校生活	○キャンペーン活動やステップでの検証	・礼儀やマナーが身に付いていると答えた生徒の割合(%)	90	94.3	93.8	A	・礼儀やマナーについてはほとんどの生徒ができていて、肯定的に捉えている。しかし、教師側が求める質と生徒の考える質にはズレがある。より高い質を求めて取り組んでいきたい。	・礼儀やマナーに関する正しい型を示すことで統一感を出し、三和中スタイルを確立する。また、これらの取組を生徒会を中心に行わせる。	宮原	○		・いじめが0ということはありません。いじめはある、という前提でいじめを見逃さず早期の取組が必要である。 ・アンケートに、いじめがあるということを書けるような生徒と教職員の関係を築いてほしい。 ・教員と生徒が友達のような感覚で接している場面が気になった。毅然とした態度で指導していかなくてはならない。 ・体力面で気になるのは持久力である。保健体育の授業を中心に、持久力を付けるための指導の工夫が必要である。	
			○生徒会自治活動の推進	・挨拶や私語なし掃除ができていないと答えた生徒の割合(%)	90	92.5	91.3	A	・挨拶や私語なし掃除についてもほとんどの生徒ができていて、肯定的に捉えている。今後もさらなる充実を求めて委員会を中心とした自治活動を積極的に仕組んでいきたい。	・引き続き、委員会を中心とした自治活動を仕組むことで、挨拶や掃除の徹底を図ってほしい。また、教員自身も生徒の良きモデルとして言動に気を付けていきたい。					
			○面接週間や生徒アンケートによる早期実態把握と迅速な組織的取組(問題行動対応マニュアルの徹底)	個人面談により、「不安がある」と答えた生徒の不安が解消された件数(%)	100	100	100	A	・面談で「不安がある」と答えた生徒に対し、すぐに取り組み、問題を解決することで全員の不安を解消することができた。	・今後も生徒の不安が出ることが予想されるので、定期的な面談だけに限らず、日々の生活の中で安心して相談できる人間関係を教員と生徒でつくることでいじめの早期発見に努めていきたい。					

【自己評価 評価基準】 ※目標値に対しての達成状況
 A: 100 ≤ (目標達成)
 B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80
 D: (できていない) < 60

【学校関係者評価】
 イ: 自己評価は適正である。
 ロ: 自己評価は適正でない。
 ハ: わからない。